

「お歸りやないのだす」

「今旦さんのお歸りやと云ふたやないか」

「あれは一寸計略だす」

「ナニ計略やと、コラ何で年のいた者を媾つたんやコラ」(ゴツン)

「そら來た」

「そら來たとはどうや」(ゴツンくくく)

「ア、痛、こういかれると應對が違ふ」

「應對が違ふ、頭を殴られる覺悟でいてくさる旦さんは」

「これの(小指を出す)處へお越しだす」

「奥さん怒つてござるで氣を付けよ」

「お店が開いたが定吉が戻つたと違ひまつか」

「これ早う返辭をしんかいな」

「へい奥さん只今」

「定吉とん御苦勞はん、アノ旦さんは」

「アノナ……アノナ……アノ」

「何を云ふてるのや、旦さんは」

「旦さんな、竹内さんへお越になりましたら、ほんなら渡邊さんや小林さんがお越しになりましたそれから碁が始りましたんで、ほんで旦さんが今晚は先へ歸つて火の用心を氣を付けて先に寝むようにと仰つしやりました。モウ仕舞」

「コレ定吉」

「へえ」

「貴郎嘘をついてなアるな」

「イエ、私ほんまついてます」

「ほんまついてると云ふ云いよがおますか、其のお座蒲團を觸つてみなはれ温うおますやろうがな、竹内さんがお越になつて旦さんに折入つてお話が有ると云ふので待てござつたがあんまりお歸が遅いので仕方がないと云ふて今お歸りになつたんやわ、今まで此處にお居でになつてござつたのに竹内さんのお宅で碁が始る譯がないやないか」

「そうかて竹内さんで碁が……」

「能うそんな白々しい嘘をつくわ」

「コレ定吉とん、ほんまの事を云ひんか、ほんまの事を云はなあかんし」